



日本時間学会の大会を初めて千葉で開催。学術シンポジウムと特別講演会を一般公開！

“「心的時間」の謎”と“標準時構築の最先端”を識る2日間

「時の記念日」である6月10日（日）を含む2日間にわたり、日本時間学会の第10回記念大会が千葉大学西千葉キャンパスで開催される。千葉大学での同学会大会開催は今回が初めて。大会期間中は、会員による一般発表のほか、共催企画として、私たちが感じている時間の本質に迫る公開シンポジウム（9日）と、超精巧な時間計測を可能とする原子時計開発に関する特別講演会（10日）も**参加費無料**で一般公開される。（いずれも申込不要）

■時間学公開学術シンポジウム2018

『心的時間の諸特性とその基礎

－時間はどういうようにして体験されているのか？』

同じ長さの時間でも長く感じたり短く感じる場合があります。また、同時に起こった出来事が、時間的に前後して感じられることもあります。私たちが感じている時間－「心的時間」－は物理的な時間とは異なる特性を持っているのです。「心的時間」にどのような特性があるのかを解明する試みが基礎心理学や神経科学において進められています。この公開シンポジウムでは、これらの分野で主導的研究を行っている気鋭の研究者3名が心的時間の特性と最近の研究動向について紹介します。



日時：平成30年6月9日（土）14：30～17：40

会場：千葉大学文学部棟105講義室 対象：どなたでも参加できます

主催：山口大学時間学研究所

共催：千葉大学・日本時間学会

◎コーディネーター：一川誠（千葉大学・日本時間学会会長）

◎講師：山本 健太郎（九州大学大学院人間環境学研究院）「心的時間における認知的基盤」

◎講師：四本 裕子（東京大学大学院総合文化研究科）「時間知覚と脳内ネットワーク」

◎講師：林 隆介（産業技術総合研究所システム脳科学研究グループ）「視覚情報の階層的な処理とその時間的統合について」

◎指定討論者：寺尾 将彦（山口大学時間学研究所）

■日本時間学会第10回大会特別講演会（セイコーホールディングス株式会社特別協賛）

『世界の標準時と原子時計最先端』

細川 瑞彦（国立研究開発法人 情報通信研究機構・理事）

1967年の秒の定義改定以来、標準時は原子時計を用いて定められています。その原子時計は、光の技術の発展により、原子とレーザー光との共鳴でさらに正確さが向上してきています。セシウム原子と電波の組み合わせから、別の原子とレーザー光の組み合わせに秒の定義が改定される日もそう遠くないと考えられており、実際に、光格子時計などが標準時にも影響を与え始めています。この講演では、原子時計の基礎的な原理と、標準時構築の仕組み、さらに光格子時計など最新の光時計と、それがどう標準時構築に関わりつつあるかについて、日本の大きな貢献も含めてお話ししていただきます。



原子泉型一次周波数標準器
（情報通信研究機構）

日時：平成30年6月10日（日）10：00～12：00

会場：千葉大学文学部棟105講義室 対象：どなたでも参加できます

主催：日本時間学会

共催：千葉大学・山口大学時間学研究所

特別協賛：セイコーホールディングス株式会社

◎司会進行：藤澤健太（山口大学時間学研究所長）

◎指定討論：滝澤勝由（セイコーインスツル株式会社ムーブメント事業部時計設計部長）

一川誠（千葉大学・日本時間学会会長）

本件に関するお問い合わせ・取材のお申し込み

千葉大学 大学院人文科学研究院 認知心理学研究室 一川 誠

TEL：043-290-2283 メール：michikawa@chiba-u.jp

研究室ホームページ：http://www.psy.l.chiba-u.ac.jp/labovision2/index.html

■ シンポジウム・講演会 会場のご案内

千葉大学文学部棟 105講義室

JR西千葉駅・京成みどり台駅より徒歩10分

